

1 基本目標の概要

「しごと」と「ひと」の好循環を作り出すため、ものづくりや医療、農業などの強みを活かした産業振興・競争力強化などに産学官金が連携して取り組み、質・量ともに魅力ある、安定した雇用を創出する。
さらに、地域企業と学生のマッチングなどに積極的に取り組み、市内の大学等をはじめとした新卒者の地元就職を促進する。

基本目標

安定した雇用を創出する
【数値目標】

- ・基準年(H26年度:16,507人)を上回る年間新規雇用者数を毎年創出する。
- ・市内大学等の新卒者の市内企業への就職率

施策の基本的方向

- ① ものづくりなど 頑張る企業を地域で応援する
- ② 医療の集積を活かす
- ③ 職業としての農業の魅力を高める
- ④ 久留米市での就業を応援する

重点事業

【①関連】
耳納北麓(職遊一体型)グリーンアルカディア創生パッケージ (新たな産業拠点整備事業)

【③関連】
雇用・就労応援パッケージ (久留米でやってみん農・就農なんでん応援事業)

【④関連】
雇用・就労応援パッケージ (「久留米で創業」応援事業、学生・企業Win²事業)

2 平成30年度の新規・拡充の取り組み等

- ①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する**
 - ・産学官金による「久留米市産業振興協議会」の取組みの中で、「久留米輝くものづくり事例集」を作成し、今後の企業誘致や事業マッチング等に活用。
 - ・販路拡大や売れる商品づくりの支援により、地元企業の成長を支援するため、展示会出展に必要な経費の一部助成やアドバイザーによる助言を行った。
 - ・福岡県・うきは市と連携して久留米・うきは工業団地の第1期分譲開始し、(株)資生堂の進出が決定した。
- ②医療の集積を活かす**
 - ・理化学研究所と久留米大学(医学部)との共同研究室を学内に開設。
- ③職業としての農業の魅力を高める**
 - ・農業都市「久留米」の魅力や活躍する農業者を紹介する動画等を作成し、農業に関心を抱く方に情報発信を行う「就農機会促進事業」に取り組んだ。
- ④久留米市での就業を応援する**
 - ・地元企業の魅力発信ツールである情報誌「くるめで働こう」の動画を作成し、市内各所で配信するとともに、LINEを活用した情報発信も開始した。
 - ・「久留米市雇用・就労推進協議会」が行う合同会社説明会を、福岡市(福岡大学)にて実施。



ものづくり事例集



バイオベンチャーによる研究



「久留米の農」ロゴマーク

3 数値目標・KPI・課題

数値目標

数値目標	基準値→R1目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
基準年を上回る年間新規雇用者数を毎年創出する	16,507人 ▼ 基準年を毎年上回る	H27	16,507人以上	16,639人	○	A
		H28	16,507人以上	17,375人	○	
		H29	16,507人以上	17,861人	○	
		H30	16,507人以上	17,527人	○	
		R1	16,507人以上			
市内の大学等の新卒者の市内企業への就職率	12% ▼ 17%	H27	13.0%	12.9%	△	C
		H28	14.0%	11.2%	×	
		H29	15.0%	9.6%	×	
		H30	16.0%	10.8%	×	
		R1	17.0%			

○: 達成できた(100%以上) △: 概ね達成できた(70-100%未満) ×: 達成できなかった(70%未満)
A: 目標を達成できる見込み B: 目標達成には努力を要する C: 目標達成には厳しい状況にある

KPI

施策の基本的方向	KPI数	H30年度の進捗度				目標年度(R1年度末)の達成見込み		
①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する	12	○ 5	△ 4	×	○ 1	A 8	B 2	C 2
②医療の集積を活かす	3	○ 2			○ 1	A 3		
③職業としての農業の魅力を高める	4		△ 3		○ 1	A 1	B 3	
④久留米市での就業を応援する	2			○ 2		A 2		

○: 達成できた (100%以上) △: 概ね達成できた (70-100%未満) ×: 達成できなかった (70%未満) -: 現時点では判断が困難
A: 目標を達成できる見込み B: 目標達成には努力を要する C: 目標達成には厳しい状況にある

課題

- ①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する・・・企業の成長や創業等を地域全体で支援する取組みの充実・強化。
- ②医療の集積を活かす・・・医療の集積、共同研究成果を活用した製品化・事業化の促進。
- ③職業としての農業の魅力を高める・・・次世代を担う若い農業者の確保及び育成。
- ④久留米市での就業を応援する・・・地元企業で働く魅力発信の更なる強化、多様な働き方の促進。

4 今後の展開

全般: 引き続き、久留米市産業振興協議会、久留米市雇用・就労推進協議会による産学官金労の連携による民間主体の取組みを推進する。

- ①ものづくりなど頑張る企業を地域で応援する**
 - ・次期産業団地整備に向けた検討を進めるとともに、中心市街地等へのオフィス誘致も積極的に行う。
 - ・新インキュベーション施設の建設に向けた取組みを進め、バイオ関連企業のさらなる集積を目指す。
 - ・「久留米輝くものづくり事例集」等を活用して企業情報の発信を進めるとともに、首都圏における認知度向上を目指す。
- ②医療の集積を活かす**
 - ・理化学研究所との連携を強化して事業化を促進するとともに、連携拠点化のさらなる推進にも取り組む。
- ③職業としての農業の魅力を高める**
 - ・「就農前」から「就農後の営農定着」まで、それぞれの段階に応じた支援を行う。また、集落営農組織の法人化や経営力向上のための取組みを強化する。
- ④久留米市での就業を応援する**
 - ・全国的に優れた強みを有する市内企業の魅力発信を、情報誌「くるめで働こう」等を活用して進めるとともに、産学官金労の連携強化により、新卒者の地場企業就職促進などの効果的な事業展開を図る。

1 基本目標の概要

久留米市の人口減少を抑制するため、移住希望者に久留米暮らしのよさを実感してもらい、市外からの転入者、とりわけ大都市圏からの転入者の増加に取り組む。
また、戦略的な成長分野として「観光」を位置づけ、豊富な地域資源を活用して国内外から観光客を呼び込み、地域経済の活性化に結び付けていく。

基本目標

久留米市への新しい人の流れをつくる

【数値目標】

- ・大都市圏への転出超過数 : 650人 ⇒ 550人
(H24~26年度平均) (H31年度までの5年間平均)
- ・年間観光客数 : 515万人 ⇒ 700万人
(H25年) (H31年)

施策の基本的方向

- ⑤ 久留米を知って感じてもらう
- ⑥ 希望の暮らしをサポートする
- ⑦ 観光と文化で人を呼び込む

重点事業

【⑥関連】

- ・移住・定住安心サポートパッケージ（移住サポート事業、文化芸術・スポーツによる楽しみ創出事業）

【⑦関連】

- ・耳納北麓（職遊一体型）グリーンアルカディア創生パッケージ（耳納北麓観光振興事業）
- ・オール久留米で観光客獲得パッケージ（MICE誘致推進事業、インバウンド推進のための環境整備事業、西鉄沿線周遊観光推進事業、久留米版DMO設置事業）

2 平成30年度の新規・拡充の取り組み等

⑤久留米を知って感じてもらう

- ・移住情報サイトの運用開始（H30.5~）
- ・インスタグラムを活用した情報発信（H30.10~）
- ・住宅販売業者等と連携した移住PRイベントの実施（4回）



くるっぴのインスタグラム開設

⑥希望の暮らしをサポートする

- ・福岡都市圏在住者を対象とした移住定住アンケート調査の実施
- ・東京圏での相談会、イベントでの相談対応（延べ132組）



久留米フェスティバルでの移住定住ブース

⑦観光と文化で人を呼び込む

- ・QRコードやアプリを活用した観光案内機能の充実
- ・外国人旅行貸切バス補助金制度を活用したインバウンド推進
- ・カザフスタン共和国の東京オリンピック、パラリンピックの事前キャンプ誘致
- ・久留米つばき園10周年記念コンサート、スケッチ大会の実施
- ・歴史遺産の資源活用を図るため高良大社所蔵資料の調査実施
- ・「歴史のまち久留米」のストーリーシート作成と関連イベントの開催
- ・田主丸ふるさと会館にカフェと情報発信コーナーの開設



観光案内マップにQRコードを設置

3 数値目標・KPI・課題

数値目標

数値目標	基準値⇒R1目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
大都市圏への転出超過数	650人/年 ▼ 5年間の平均 550人/年	H27	550人	547人	○	C
		H28	550人	467人	○	
		H29	550人	630人	×	
		H30	550人	733人	×	
		R1	550人			
年間観光客数	515万人 ▼ 700万人	H27	530万人	525万人	×	C
		H28	600万人	537万人	×	
		H29	650万人	591万人	×	
		H30	680万人	集計中	—	
		R1	700万人			

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) —：現時点では判断が困難
A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

KPI

施策の基本的方向	KPI数	H30年度の進捗度
⑤久留米を知って感じてもらう	2	○ 2
⑥希望の暮らしをサポートする	1	○ 1
⑦観光と文化で人を呼び込む	11	○ 3 △ 3 × 1 — 4

目標年度（R1年度末）の達成見込み
A 2
A 1
A 5 B 3 C 3

○：達成できた(100%以上)
△：概ね達成できた(70-100%未満)
×：達成できなかった(70%未満)
—：現時点では判断が困難
A：目標を達成できる見込み
B：目標達成には努力を要する
C：目標達成には厳しい状況にある

課題

⑤久留米を知って感じてもらう

- ・アンテナショップ閉館後、東京圏に対しては久留米の知名度の向上、また、福岡都市圏に対しては久留米の魅力の浸透に向け、戦略性をもって集中的に取り組む必要がある。

⑥希望の暮らしをサポートする

- ・移住定住の相談は毎年増加していることから、実際の移住につなげるための支援やきめ細やかな相談への対応が必要である。

⑦観光と文化で人を呼び込む

- ・外国人観光客の取り込みや、スポーツコンベンションを含むMICEの受入れに際しては、満足度の向上を図るとともに関係団体との連携を強化するなど、地域資源を十分に活かした誘客が必要である。

4 今後の展開

⑤久留米を知って感じてもらう

- ・東京圏で開催される物産展などを活用した効果的な情報発信
- ・移住支援情報の電車内広告の掲載などPRの強化

⑥希望の暮らしをサポートする

- ・久留米と東京の移住コンシェルジュを中心としたきめ細やかな相談対応の実施
- ・効果的、効率的な移住サポートに向けた、定住奨励補助金制度の見直し

⑦観光と文化で人を呼び込む

- ・外国人観光客の動向把握や観光案内機能強化によるインバウンドのさらなる推進
- ・H30年度に発足した久留米版DMOによるマーケティングに基づいた観光振興策の強化
- ・東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプの機会を捉えたMICE誘致の推

2020年夏、ケニア、カザフスタン選手団が久留米にやってくる!



2020 KURUME CAMP KENYA & KAZAKHSTAN

1 基本目標の概要

未婚化・晩婚化の進行と夫婦の子ども数の減少を改善するため、結婚したい人の希望がかなえられるよう、情報提供や出会いを応援する仕組みづくりなど総合的な支援に取り組む。

また、子どもを持ちたい人が、持ちたいときに安心して子どもを産み育てることができるよう、経済的な負担をできる限り軽減し、仕事と子育てを両立できる社会環境を整えるとともに、子育てに向かう心理的な負担を取り除く取り組みを進める。

基本目標

施策の基本的方向

若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】

- ・子育てしやすいまちと思う市民の割合
: 70.8%(H26年度) ⇒ 80%(H31年度)

⑧ 希望がかなう就労環境を整える

⑨ 結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

重点事業

- ⑧関連：雇用・就業応援パッケージ（ワーク・ライフ・バランス応援事業、女性活躍促進事業）
- ⑨関連：移住・定住安心サポートパッケージ（子育てつよーいみかた事業）

2 平成30年度の新規・拡充の取り組み等

⑧希望がかなう就労環境を整える

- ・ワーク・ライフ・バランス推進助成金の要件に、「介護」を追加し、対象を拡充
- ・多様な働き方を促進するためのテレワークセミナーの開催（1回98人）



テレワークセミナーの開催

⑨結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

- ・保育士進学支援事業費補助金の助成開始（2人）
- ・子ども支援ガイドブックの作成
- ・保育所等巡回支援事業の開始（4か所12人）
- ・保育士人材確保対策事業において、1、2歳児の受入れを積極的に行う保育所等への補助期間の延長（6か月→9か月）
- ・潜在保育士就職支援給付金給付事業の給付対象者を非常勤職員まで拡大
- ・教育ICT活用推進校へのタブレット端末導入による授業の実践研究の実施（4校）
- ・外部有識者で構成する「久留米市学力の保障と向上に関する委員会」の設置



子ども支援ガイドブック



タブレット端末導入による授業

3 数値目標・KPI・課題

数値目標

数値目標	基準値⇒ R1目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
子育てしやすいと思う市民の割合	70.8% ▼ 80.0%	H27	72.0%	78.7%	○	B
		H28	73.0%	78.1%	○	
		H29	75.0%	78.0%	○	
		H30	78.0%	77.0%	×	
		R1	80.0%			

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) -：現時点では判断が困難
A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にあ

■評価のポイント
待機児童解消に向けた新規事業に取り組む中、子育てしやすいと思う市民の割合は微減傾向が続き、平成30年度は目標値を下回る結果となった。目標達成に向けて、計画の着実な実施と情報発信の充実に取り組む。

KPI

施策の基本的方向	KPI数	H30年度の進捗度			目標年度（R1年度末）の達成見込み				
⑧希望がかなう就労環境を整える	4	○ 1	×	○ 2	A 1	B 1	C 2		
⑨結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする	11	○ 4	△ 1	×	○ 4	- 2	A 3	B 3	C 5

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) -：現時点では判断が困難
A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

課題

⑧希望がかなう就労環境を整える

- ・市内企業へのワーク・ライフ・バランスの取り組みの更なる普及、啓発が必要である。
- ・市内企業への市内大学等の卒業者の就職率向上への取り組みの強化が必要である。

⑨結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

- ・保育所等の待機児童解消や学童保育所での児童の受入拡大、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実に更に取り組んでいく必要がある。
- ・全国学力・学習状況調査における正答率の改善をはじめ、いじめや不登校の解消に向けた取り組みの充実・強化を図る必要がある。

4 今後の展開

⑧希望がかなう就労環境を整える

- ・仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりに向けて、ワーク・ライフ・バランス推進助成金の見直しを行うとともに、制度の周知・広報を徹底し、利用促進を図る。
- ・全国的に優れた強みを有する市内企業の魅力を伝えるため、効果的な情報発信を行い、市内企業への就職率向上に取り組む。

⑨結婚から子育て、教育までの不安を軽くし希望の実現を後押しする

- ・待機児童の解消に向けた保育士人材の確保・定着や送迎保育ステーション事業に取り組むとともに、学童保育所指導員の確保、こども子育てサポートセンターの相談体制の充実に取り組む。
- ・学力向上に向けて、全校への学力向上プランの導入をはじめ、学力向上実践推進校での指導力向上実践研究や英語教育の充実等に取り組む。また、不登校への対応では、生徒指導サポーターやスクールカウンセラー等の配置を充実し、不登校の未然防止・早期対応に取り組む。

1 基本目標の概要

市街地の拡散的拡大を抑制しながら高次都市機能の集約を図るとともに、住み慣れた地域での生活サービス機能等を維持するため、広域求心力のある中心拠点と日常生活圏の中心となる地域の生活拠点とが相互に補完し合うネットワーク型のコンパクトな都市づくりを進める。

また、地域で支えあう仕組みを構築し、人々が健康と安心を実感できる、「住みたい、住みつけられる」まちづくりを推進する。

基本目標

安心な暮らしを守る

【数値目標】

- 住み続けたいと思う市民の割合
: 75.4%(H26年度) ⇒ 80%(H31年度)

重点事業

【⑩関連】

- 耳納北麓グリーンアルカディア創生パッケージ（久大本線新駅の設置促進事業）
- 移住・定住安心サポートパッケージ（空き家活用新生活推進事業）

施策の基本的方向

- ⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる
- ⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

2 平成30年度の新規・拡充の取り組み等

⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる

- 農地付き空き家情報バンクの制度開始
- 空き家活用推進協議会と空き家活用DIY体験会の実施
- 買い物支援事業者新規参入促進のためのセミナー開催等
- 空き店舗でのお試し出店とセミナーの開催
- コミュニティサイクルポートの増設（1箇所）
- 自転車走行空間整備（3区間）
- バスロケーションシステム表示機設置支援（2箇所）
- 自立分散型エネルギーシステム導入助成開始



空き家活用DIY体験会



買い物支援事業セミナー

⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

- 協会健保との同時健診の実施、レディースデーの拡充
- コンビニ健診の充実や大腸がん・骨粗しょう症健診の受診勧奨、旧市域集団検診の充実及びインターネットでの予約受付を実施
- 市民ラジオ体操の集いの会場拡充、民間企業と連携してウォーキングの普及啓発・推進
- セーフコミュニティの再認証を取得（記念式典の開催）
- 道路附属照明灯、ゾーン30（天神町地区）、雨水幹線水路（長門石地区）の整備
- 内水ハザードマップの更新版作成（H30浸水状況反映）



健診のインターネット予約



セーフコミュニティ再認証取得

3 数値目標・KPI・課題

数値目標

数値目標	基準値→ R1目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
住み続けたいと思う市民の割合	75.4% ▼ 80%	H27	76.0%	73.0%	×	B
		H28	77.0%	76.4%	×	
		H29	78.0%	72.2%	×	
		H30	79.0%	73.0%	×	
		R1	80.0%			

- : 達成できた(100%以上)
- △: 概ね達成できた(70-100%未満)
- ×: 達成できなかった(70%未満)
- : 現時点では判断が困難
- A: 目標を達成できる見込み
- B: 目標達成には努力を要する
- C: 目標達成には厳しい状況にある

KPI

施策の基本的方向	KPI数	H30年度の進捗度			目標年度（R1年度末）の達成見込み		
⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる	13	○ 5	× 6	- 2	A 4	B 5	C 4
⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る	5	○ 2	× 2	- 1	A 2	B 3	

- : 達成できた(100%以上)
- △: 概ね達成できた(70-100%未満)
- ×: 達成できなかった(70%未満)
- : 現時点では判断が困難
- A: 目標を達成できる見込み
- B: 目標達成には努力を要する
- C: 目標達成には厳しい状況にある

課題

⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる

- 公共交通の利用者数は近年微増傾向にあるが、持続可能な公共交通網を形成するためには、利用環境や利便性の向上、さらには拠点内及び拠点間の移動環境の整備が必要である。
- 空き家の増加が見込まれる中、空き家の流通促進や新たな方策が必要である。
- 住み慣れた地域で住み続けるため、地域内の買い物利便性の向上など地域の実情に応じた施策の展開が必要である。

⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

- ラジオ体操の普及イベントである市民ラジオ体操の集いの会場拡大に取り組んだが、運動する人の割合が減少したため、新たな取り組みの推進が必要である。
- セーフコミュニティの各種取り組みの裾野拡大により、市民のけがや事故・犯罪件数の減少などの安全・安心につなげていくため、若年層や子育て世代、企業等への普及啓発等が必要である。

4 今後の展開

⑩ 中心拠点と地域生活拠点の機能を高め、暮らし続けられるコンパクトなまちをつくる

- 安定的な公共交通の維持やバス路線の見直しによる利便性の向上
- 自転車走行空間整備やコミュニティサイクルのポート増設による自転車利用環境の改善
- 地域のニーズに応じた地域提案型による空き家の有効活用や買い物支援事業の展開、地理的条件や地域特性に応じた施策展開（拡充・強化）の検討

⑪ 健康で安心して暮らせる日常を守る

- くるめ健康のびのびポイントを実証的に実施し、検診受診者への特典の付与による受診率の向上や、市民個人の健康づくり活動に対して特典を進呈することで、多くの市民の健康保持・増進を図る。
- セーフコミュニティの各施策のさらなる推進、認知度向上及び取り組みの裾野拡大を図る。
- 河川避難判断マップの作成やSNS・HP等で災害状況の映像の配信、必要に応じて地域の防災に係る様々な計画の策定等に取り組むとともに、自主防災研修・訓練を通じて防災意識の向上を図っていく。

1 基本目標の概要

久留米市が県南地域の中核都市として今後も持続的に発展していくため、連携中枢都市として、地域全体のけん引を担い、近隣市町との連携により久留米広域連携中枢都市圏を形成し、「住み続けたい、暮らしてみたい、訪れてみたい」と支持される魅力ある圏域づくりを推進する。

基本目標

広域拠点の役割を果たす

【数値目標】
 ・久留米市の常住人口（15歳以上80歳未満）
 平日：241,724人 → 基準値常住人口を維持する
 休日：240,408人
 （平成27年）

施策の基本的方向

⑫ 連携中枢都市として圏域の魅力を高め、大都市圏への人の流れを食い止める

重点事業

- 「圏域全体の経済成長のけん引」
 地域資源を活かした地域経済の裾野拡大や地域産業の育成、戦略的な観光の推進 など
- 「高次の都市機能の集積・強化」
 圏域の賑わいづくり、高度な医療サービスの提供、文化芸術に触れる機会の提供 など
- 「生活関連機能サービスの向上」
 地域医療、子育て支援、地域公共交通、地域内外の住民との交流・移住促進 など

2 平成30年度の取り組み等

○圏域全体の経済成長のけん引（21事業）

- ・アンテナショップ「福岡久留米館」において、圏域各市町の魅力を発信するイベントを実施（9回）
- ・農商工連携・6次産業化ビジネス交流会を開催
- ・合同会社説明会を市内大学等での開催に加え、福岡大学で開催
- ・圏域の観光資源のPRのため、東京ウォーカーに特集記事を掲載



6次産業化ビジネス交流会

○高次の都市機能の集積・強化（5事業）

- ・久留米シティプラザ等を舞台に九州最大級の大道芸フェスティバルを開催。プレイメントとして大木町にて大道芸を実施
- ・「ディズニー・オン・クラシック」等で圏域住民向け先行予約枠設定



大道芸フェスティバル

○圏域全体の生活関連機能サービスの向上（17事業）

- ・病児保育の受入施設を1施設増やし、圏域での病児保育受入を拡充（6施設、定員29名）
- ・『公共交通マップ』の内容を充実し、18,000部（1.5倍）に増刷
- ・路線バス(北野線)の路線再編に向けた関係者との協議や調査の実施
- ・久留米市の電力入札に関するノウハウを活用し、圏域で電力入札を実施（電気料金約1.4億円削減）



公共交通マップ

3 数値目標・KPI・課題

数値目標

数値目標	基準値→ R1目標値	年度	目標値	実績値	進捗度	評価
久留米市の常住人口	基準年の常住人口 平日：241,724人 休日：240,408人 (15歳以上80歳未満) を維持する	H27	常住人口を維持	—	—	B
		H28	常住人口を維持	平日：240,014人 休日：239,602人	×	
		H29	常住人口を維持	平日：238,869人 休日：238,689人	×	
		H30	常住人口を維持	集計中	—	
		R1	常住人口を維持			

■評価のポイント

- ・平成30年度は現時点では数値が未発表のため、評価「—」とした。
- ・人口が減少局面に入ったとみられ、また大都市圏への転出超過傾向が続いている中、常住人口を維持することは、近隣市町と連携して魅力ある圏域づくりが必要であることから令和元年度末の目標達成見込みは「B」としている。

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) —：現時点では判断が困難
 A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

KPI

施策の基本的方向	KPI数	H30年度の進捗度	目標年度（R1年度末）の達成見込み
⑫ 連携中枢都市圏として圏域の魅力を高め、大都市圏への人の流れを食い止める	1	△ 1	C 1

○：達成できた(100%以上) △：概ね達成できた(70-100%未満) ×：達成できなかった(70%未満) —：現時点では判断が困難
 A：目標を達成できる見込み B：目標達成には努力を要する C：目標達成には厳しい状況にある

課題

- ・福岡都市圏や東京圏等への転出超過傾向の改善に向けた、施策の展開が必要である。
- ・アンテナショップが令和元年7月末をもって閉館することから、閉館後の首都圏などでの効果的な魅力発信の取組みについて、検討が必要である。
- ・圏域自治体との更なる連携強化や圏域を越えた近隣自治体との連携、産学官民が一体となった事業の推進が必要である。

4 今後の展開

○圏域全体の経済成長の牽引

- ・大阪市や福岡市で圏域の地場産品のPR・販売を実施するとともに、ECを活用したリピーター確保と販売促進の実施
- ・東京都で開催される企業立地フェア2019に出展し、圏域で企業誘致活動やPRを実施
- ・首都圏等への新たな情報発信方法の検討

○高次の都市機能の集積・強化

- ・久留米シティプラザで開催される音楽やミュージカルなどを鑑賞する機会の優先提供の実施

○圏域全体の生活関連機能サービスの向上

- ・沿線の活性化と利便性向上のため、路線バス(北野線)の路線再編の実施
- ・電力入札における広域で連携した入札事務の実施、及び対象施設の調査・選別、仕様書作成などの技術的な連携強化

○東・西部地域の振興策の推進

- ・圏域を越えた近隣自治体との連携の検討